

平成28年度 学生等災害ボランティアリーダー育成事業

活動報告書



【背景・目的】

石川県内の大学等では、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。

こうした現状の中、地域防災力のさらなる向上を考えていくため、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内の各大学や企業、NPO、県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部などが連携を密にし、県内の災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるためのきっかけとなることを目指し、学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会を組織し、平成24年度から本事業を実施しています。

【事業の成果】

平成28年度は、能登半島地震から10年の節目となるため、地元で起きた大きな災害を忘れないでもらおうと県内の大学生等を対象とした「能登半島地震被災地における宿泊体験研修」を実施しました。研修では、災害ボランティアの基本を習得するとともに、能登の被災者や災害ボランティア経験者に当時の状況や課題を語ってもらいました。その後「スキルアップ研修」で活動の視野を広げ、「きずなフォーラム」での各団体の活動発表を通して、地域で災害支援の課題を共有することができたと感じています。

また、県内の企業を対象とした「災害と企業ボランティアセミナー」では、企業の災害ボランティア活動例や行動する際の知識などの講義を通じて、災害ボランティア活動の普及と啓発が図られました。

今年度も熊本地震や鳥取地震など大きな災害が発生しており、これまで以上に人々の災害に対するありがた、防災教育の重要性が指摘されています。来年度は、学生を対象としたより実践的な研修や、地域と連携した活動を行っていきたく考えています。

平成29年 2月

実施主体：(公財)石川県県民ボランティアセンター 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会
 問合せ先：(公財)石川県県民ボランティアセンター 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ7階
 TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559 E-mail ei30500a@pref.ishikawa.lg.jp

4 災害と企業ボランティアセミナー

能登半島地震や東日本大震災を契機に、企業としての災害ボランティア活動への関心がさらに高まっていることから、県内企業を対象に、災害が発生したとき企業が出来る活動や期待されること、また実際の活動事例の紹介などにより、企業と災害ボランティアとの関わりを考えてもらうきっかけとするセミナーを開催しました。

日時：平成28年6月20日(月) 13時30分～15時
 会場：石川県庁1102会議室
 参加者：約30名

講師	講演内容
(公財)石川県県民ボランティアセンター 幹事 鈴木 隆	ボランティアに関する災害時の 県の体制と企業のボランティア活動
石川県立看護大学 附属地域ケア総合センター長 武山 雅志 氏	こころ・からだ・生活 — 3つのケアの相関関係 —
日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー 北村 裕一 氏	企業が出来る災害ボランティア活動
企業の活動報告(北陸労働金庫)	東日本大震災当時、 企業で行った支援活動について
(社福)石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長 古川 浩子 氏	社協と災害 ～ 熊本での支援 ～



時間の経過と共に変化する被災者の心理について、ケアの方法も交えた講義が行われました。(武山講師)



北陸労働金庫による、東日本大震災時の活動報告の様子です。

関係機関・関係者・協力者

◇学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

[当研究会では、複数の大学や団体に所属する講師により、事業内容の検討及び結果の検証などを行っています。]

- 【委員長】 池田 幸應 金沢星稜大学 人間科学部教授
 【委員】 武山 雅志 石川県立看護大学 附属地域ケア総合センター長
 田中 純一 北陸学院大学 人間総合学部准教授
 蜂屋 大八 金沢大学地域連携推進センター 准教授
 古川 浩子 石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長
 北村 裕一 日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー
 木島 浩 石川県県民ボランティアセンター 専務理事兼事務局長

◇各研修にご協力いただいた皆さま

<能登半島地震被災地における宿泊体験研修>

穴水町生活環境課長 東 重雄様、(社福)輪島市社会福祉協議会参事 七尾 幸子様、
 本宮のもり幼保園園長 櫻井 定宗様、輪島市災害ボランティアの会代表 三谷 みはる様、
 曹洞宗石川県青年会会長 星野 正親様、穴水町ボランティア連絡協議会会長 滝井 元之様、
 日本赤十字社石川県支部 岩本 勝様、總持寺祖院の皆様

<災害ボランティアスキルアップ研修>

フォトジャーナリスト 高橋 智裕様、RIRE代表 高橋 美奈子様、
 NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会理事 柴垣 禎様

<災害ボランティアきずなフォーラム>

珠洲市立宝立小中学校前期生徒会の皆様、金沢大学ボランティアさぼりとステーションの皆様、
 (一社)石川県災害ボランティア協会会長 水戸 雅之様、
 NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長 李 仁鉄様

<災害と企業ボランティアセミナー>

北陸労働金庫

(順不同)

◇後援 石川県、(社福)石川県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部、(公社)大学コンソーシアム石川

1 能登半島地震被災地における宿泊体験研修

能登半島地震を振り返ると共に災害ボランティアの基本を学び、活動への理解を深めることを目的に、平成19年3月の能登半島地震被災地である奥能登地区（輪島市門前町、鳳珠郡穴水町）で1泊2日の宿泊研修を行いました。

日程：平成28年9月20日（火）～21日（水）[1泊2日]

行先：總持寺祖院（輪島市門前町）— のとふれあい文化センター（鳳珠郡穴水町）

移動：大型バス1台（金沢市内—能登半島地震被災地（門前町、穴水町）—金沢市内）

参加者：県内の大学生等38名、引率及び事務局8名

宿泊先：のとふれあい文化センター

その他：参加者及び未成年者の保護者より同意書を受領の上、国内旅行傷害保険に加入

9/20(火) 1日目(總持寺祖院)

ワークショップ

13:00～17:00



能登半島地震当時、輪島市や穴水町には、計3ヶ所の「災害ボランティアセンター」が立ち上がりました。当時、センター運営などに携わった社会福祉協議会職員や青年会議所メンバー、行政職員をはじめ、地元や外部からのボランティアとして、被災者からのニーズの聞きとりや仮設住宅での傾聴活動を行った方々を講師としてお招きし、当時の様子についてお話しいただきました。



「被災した方々のニーズをどうすれば拾えるか」「災害時にボランティアを行うときに必要な心構え」など、6班に分かれて話し合いました。

講師6名がそれぞれ各班に入り、自身の経験談を交えながら活動のヒントを与えていただきました。

9/21(水) 2日目(のとふれあい文化センター)

ワークショップ 成果発表

8:00～8:40



ワークショップを受けて、各班の考えを発表しました。前日夜には、各班に分かれ、夜遅くまで発表資料の作成が行われていました。



災害ボランティアセンターとは

8:40～9:00



行政、社会福祉協議会、日本赤十字社が協力して立ち上げる、本県の災害ボランティアセンターについて、その活動や実際の動きを説明しました。

その後コースに分かれ実施

B 救急法マスターコース



その後コースに分かれ実施

A 災害ボランティアコース

9:00～11:00



ストックングやタオルなど、身近なものを使ってできる応急処置や、土のう袋の結び方など、実践的な対応を学びました。

救急法講習

9:00～15:30

日本赤十字社石川県支部の救急法講師による基礎講習の様子です。1日をかけて、座学と実践講義を交互に行い、後日修了証が交付されました。

A・B 共通 炊き出し体験

11:00～13:00



「災害時に食材を持ち寄った」という設定で、炊き出し体験を行いました。1時間弱の短い調理時間でも美味しくできました。

避難所運営を学ぶ

13:00～15:30



避難所運営ゲーム(HUG)を行い、避難所へやってくる地域住民を想像しながら受入れに必要なことは何かを考えました。

2 災害ボランティア スキルアップ研修

被災地の現状や、外国人などの社会的マイノリティに対する支援体制に関する講義を通して、災害ボランティア活動への理解をより一層深め、活動の視野を広げることを目的としたスキルアップ研修を行いました。

日時：平成28年11月12日（土）13時30分～16時30分

会場：石川県文教会館 401・402会議室

参加者：35名



フォトジャーナリスト
高橋 智裕 氏

講演

「災害時における
情報との向き合い方」

ソーシャルメディアの発達により、一人ひとりが重要な情報発信源であることを自覚し、被災地では一呼吸置いてから情報発信をする重要性や、マスメディアの問題点について講演していただきました。

NPO法人多文化共生
マネージャー全国協議会
理事 柴垣 禎 氏

講演・ワークショップ
「報告！災害時の外国人支援の現場～やってみよう！すべての人に安心を届ける伝え方～」



「外国人が身近に暮らしていること」や、「日本人との間に災害に対する知識の差があること」を知っておくだけでも、災害時に余裕を持って支援の手を差し伸べることができることを学びました。

編集担当からの
お知らせ

※研修の詳しい内容は、下記のホームページをご覧ください。

[学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会ホームページ]

アドレスはこちら <http://saiivolustudy.sub.jp/>

石川 学生ボラ研究

検索

3 災害ボランティア きずなフォーラム

石川県内で災害ボランティアや防災活動を行っている団体の活動発表を通して、地域で災害支援の課題を共有し、これからの支援のあり方を考えるフォーラムを行いました。

日時：平成28年11月26日（土）10時～12時30分

会場：石川県女性センター 大会議室

参加者：約70名

講演『災害時の「協働」』

災害時のニーズが多様化してきた現在では、自分たちの普段の活動の延長上で「災害時に役立つことはないか」と考えることが、いざというときの協働に繋がると考えます。



NPO法人にいがた災害
ボランティアネットワーク
事務局長 李 仁鉄 氏

2 金沢大学ボランティアさぼりと
ステーションの皆さん

発表テーマ
「ボランティア活動レポート
～5年経って必要とされるボランティア～」

岩手県陸前高田市へ、継続してボランティア派遣を続けた成果と、時間の経過によって変化する現地でのボランティア内容について発表がありました。



1 珠洲市宝立小中学校
前期生徒会の皆さん

発表テーマ
「震災の怖さと備えの大切さを学ぶ
～被災地見学から防災訓練まで～」

東日本大震災被災地への修学旅行を通して知見を広げ、珠洲市防災訓練では自主防災組織として参加するなど、積極的な姿勢で防災対策に取り組んでいます。



3 (一社)石川県災害ボランティア協会
会長 水戸 雅之 さん

発表テーマ
「広げる！防災ボランティアの輪
～災害ボランティア体験入門講座を通して感じたこと～」

「講座を通して災害時に使えるスキルを学び、体験することが、いざというときの活動のきっかけや自信につながるのではないかと感じている」

